

平成24年3月期 環境報告(要約版)

会社名: 日本合成化学工業株式会社

経営責任者名: 小笠原 憲一

作成日: 平成25年1月20日

問合せ先: 06-7711-5411

会社 URL 又は住所: <http://www.nichigo.co.jp/>

当社の平成24年3月期における主な環境配慮の状況は、以下のとおりです。

I. 基本的事項

対象組織の範囲 ^(注1)	☐ 連結	☒ 単体及び主要な子会社	☐ 単体
捕捉率 ^(注2)		(99%)	(%)
範囲の変更の有無	☐ あり	☒ なし	
対象期間 ^(注3)	平成23年4月1日～平成24年3月31日		
期間の変更の有無	☐ あり	☒ なし	

(注1) 主要な子会社名及び範囲の方針 ()

(注2) 捕捉率の算定基準 ()

(注3) 財務期間との差異 ()

II. 経営責任者の緒言や方針に関する事項

1. 経営責任者の緒言

目標・取組の明言(コミットメント)等

当社は、安全安心を基本とし、環境負荷低減に取り組みながら、環境配慮型製品を提供します(中期経営計画達成への取り組み)

わが国の経済は東日本大震災による影響から回復基調にあります。しかし、原発事故を起因とした電力不足の生産活動に与える影響や、超円高の長期化、ヨーロッパ債務危機等を背景に景気の減速が懸念されます。当社の収益に影響する液晶テレビ市場でも、需要の停滞が長引き、回復基調には至っておりません。このような状況のもと当社グループは2011年度からスタートした中期経営計画「Double15(ダブルフィフティーン)」(2011年度～2015年度)に掲げた目標を達成するため、安全・環境・品質を最優先に、コア事業の積極的拡大、新製品開発の強化、海外展開の加速等にグループ一丸となって鋭意取り組んでおります。

(安全面の取り組み)

2011年度は、グループ会社で1件の休業災害が発生しました。また、軽微災害は12件と昨年よりも減少しましたが、全災害件数を2010年度の2/3にするという目標には届きませんでした。当

社の労働災害の原因としては基本的な手順等の順守に徹底さを欠くケースが散見され、作業前の危険予知と、基本に則りあわず作業することで多くは防ぐことが可能でした。今後は、過去の災害事例の教訓を生かして、安全活動を推進し、災害撲滅を目指します。2011 年度には、重大トラブルはなかったものの、重大となる恐れのあるトラブルが発生しております。今後、決められた対策を確実に実施して再発防止の徹底をはかります。また、当社のこうした状況もふまえ、リスク管理の徹底をはかっております。各工場やグループ会社では定期的にトラブル等を想定して防災訓練を実施して、万が一の事故にも確実に対応できるようにしております。地震等が発生した場合、お客様にご迷惑をかけないために、当社の主力製品についてBCP(事業継続計画)を作成しました。さらに他の製品にも展開していく予定です。

近年、国際的な化学品安全管理の動向として、『2020 年までに人の健康や環境への影響を最小化した方法で化学物質を生産・使用する』ことを目標に、各国政府は法規制を強化し、産業界も自主的な化学物質管理活動をスタートさせています。当社もこの動向に適確に対応していきます。

(環境面の取り組み)

2011 年度は目標とした産業廃棄物・有価物のゼロエミッションを維持することができました。温室効果ガス削減については大垣工場でのボイラーの燃料転換実施(2011 年 3 月完工)や省エネ活動を推進しました。その結果、CO₂ 排出量は 25.7 万トンとなり、2010 年度(26.4 万トン)よりも CO₂ 排出量を削減することができました。また、1990 年度比 6%以上削減という目標も達成(実績△10%)しました。更なる CO₂ 削減のため熊本工場バイオマスボイラーの導入を決定し、2013 年の稼働を目指し工事を進めております。VOC(揮発性有機化合物)については従来から排出源を特定して削減対策をとってきました。さらに 2015 年度に 2005 年度比 50%削減を目標として、従来の回収だけではなく、分離(焼却)等へ転換を含めた長期計画を作成し、更なる VOC 排出削減に努めます。

当社は、事業活動に伴う環境負荷低減は勿論、液晶ディスプレイ用フィルムや、酸素バリアー性の樹脂など顧客製品に寄与する環境配慮型素材の開発に従来から取り組んでまいりました。これらは現在の当社の主力製品となっており、環境負荷低減に幅広く貢献しております。無溶剤化や水系エマルジョンなども重点テーマとしており多くの製品を開発しています。また、「ニチゴーG ポリマー」を燃料電池車等に用いられる水素耐性の優れた素材として、外部機関と共同研究する取り組みを開始しました。今後もこのような環境負荷低減に寄与する製品の開発に注力します。

2. 環境配慮の方針

緑あふれ、美しく輝かしい未来のために私たちは全ての事業活動において環境の保全と安全の確保に最善を尽くします。

全ての事業活動において環境・安全を最優先させます

全員参加で、安全の確保、省資源・省エネルギー、自然環境の保全に努めます

自然にも人にも安全な製品の提供に最善を尽くします

地球環境保全の世界的な活動に私たちの立場で参加します

Ⅲ. 重要な環境課題や戦略に関する事項

1. 重要な環境課題

☒ 気候変動	☒ 資源循環	☐ 生物多様性	☒ 廃棄物削減	☒ 水・大気汚染
☒ エネルギー	☒ 水資源利用	☒ 天然資源投入	☒ 化学物質管理	☐ その他 ^(注4)

(注4) その他の内容 ()

該当するものを■に
してください

2. 背景情報

(1) 収益獲得機会に関する背景情報

重要な課題に関する背景情
報

(2) ビジネスリスクに関する背景情報

3. ビジョン及び戦略

ビジョン

- ☒ 安全安心を基本とし、環境にやさしく、社会的責任を果たす企業
- ☒ たゆまぬ事業の選択と集中を通して高収益化を目指す企業
- ☒ 専門力を活かしてグローバルに展開する企業

重要な課題に対する中長期
ビジョンと戦略

Ⅳ. 重要な環境課題に関する当年度の対応状況

重要な環境課題	廃棄物削減			
当年度における計画及び取組状況	産業廃棄物・有害物の発生量に対して、最終埋立量の割合を0.5%以下とするゼロエミ ^{単位} 達成 ^{単位}			
環境負荷量(総量)	計画 ()	実績 ()	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) ()
環境負荷量(原単位)	計画 ()	実績 2011 年度 47/9468 0.50(%)	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) 0.5以下(%)
財務影響等				
結果の分析・評価及び次年度における取組	2012 年度以降もゼロエミッション達成の維持			

(注5) 中期目標の年度 ()

重要な環境課題	CO2削減			
当年度における計画及び取組状況	2010年のCO2排出量を1990年度比6%以上削減(実績7%)、2008～2012年の5年間のCO2削減を6%以上削減する			
環境負荷量(総量)	計画 ()	実績 ()	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) ()
環境負荷量(原単位)	計画 6% ()	実績2011年 10%削減(%)	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) 6%削減(%)
財務影響等				
結果の分析・評価及び次年度における取組	2008～2012年の中期目標を対して良好に推移している。			

(注5) 中期目標の年度 (2012)

重要な環境課題	VOC削減			
当年度における計画及び取組状況	2015年度に2005年度比50%削減する			
環境負荷量(総量)	計画 ()	実績 ()	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) ()
環境負荷量(原単位)	計画 ()	実績 2011年 32%削減(%)	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) ()
財務影響等				
結果の分析・評価及び次年度における取組	長期削減計画策定予定			

(注5) 中期目標の年度 (2015)

V. 組織体制及びガバナンスの状況

1. 環境経営の組織体制等

環境安全会議(責任者 社長)
環境安全委員会(責任者 環境安全担当役員)
担当部署:環境安全・品質保証部

最高責任者、委員会等の役割、委員会の構成員など

2. 環境に関する規制等への遵守状況

規制等の違反なし

違反の有無及びその対策

Ⅵ. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況

1. グリーン調達の実施状況

グリーン電力の購入(大垣工場)

CSR 調達を含む。要求内容、実施割合など

2. 製品・商品・サービス等による環境負荷低減

新規に開発した環境配慮型製品等の概要など

当社は、事業活動に伴う環境負荷低減は勿論、液晶ディスプレイ用フィルム~~ド~~、酸素バリア性の樹脂など顧客製品に寄与する環境配慮型素材の開発に從來から取り組んでまいりました。これらは現在の当社の主力製品となっており、環境負荷低減に幅広く貢献しております。無溶剤化や水系エマルジョンなども重点テーマとしており多くの製品を開発しています。また、「ニチゴーGポリマー」を燃料電池車等に用いられる水素耐性の優れた素材として、外部機関と共同研究する取組みを開始しました。今後もこのような環境負荷低減に寄与する製品の開発に注力します。

Ⅶ. その他の事項

(以下については、環境報告書等を参照することも可能です。ただし、環境報告を作成していない場合や当年度に新たな事象の発生や変更があった場合には、該当する事項を記載して下さい。)

1. 組織体制及びガバナンスの状況

(1) 環境監査及び環境教育

毎年末にレスポンシブル・ケア監査を実施

実施概要等

(2) 災害事故等への対応状況

推定される災害の程度とその対応状況

2. ステークホルダーへの対応状況

要請・期待の内容とそれらへの対応状況

3. 社会的取組の状況

紛争鉱物、人権、労働等への対応が記載されている参照 URL 等

4. 後発事象

決算日後の事象の有無及び概要

【補足情報】

(以下において、記載をしない項目は削除してください。斜体文字は記載例です。)

(環境負荷量の時系列一覧)

KPI 等	2009年度	2010年度	2011年度	備考
温室効果ガス排出量 (総量)	25.4(万トン)	26.6(万トン)	25.8(万トン)	*1
温室効果ガス排出量 (原単位)	()	()	()	*2
	()	()	()	*3

主要なパフォーマンス指標(KPI)及び KPI と関連する環境負荷量の直近3年分

(数値情報に関する補足情報)

- *1 算定方法(算定式、係数等) 温対法係数利用
- *2 算定方法(算定式、係数等)
- *3 ライフサイクルにおける活動別環境負荷量

活動区分	温室効果ガス排出量
原料調達	
生産	
使用	

上記に関わる算定方法(算定式、係数等)、報告セグメント別の環境負荷量、ライフサイクルにおける活動別環境負荷量など

(法令等により国に報告した環境負荷量)

会社名	温室効果ガス排出量	備考
A社		*1
B社		

法令により国に報告した環境負荷量のうち、重要な課題に関するものなど

※算定基準(算定式、係数等)が「数値情報に関する補足情報」と相違する場合 (その内容)

- *1 根拠法令等(温対法)
- *2 算定方法(算定式、係数等)

(組織体制等)



組織体制等の全体像や他の組織体制との関係が分かる図

(環境配慮製品の研究開発等)



環境配慮型製品の研究開発等の具体的なイメージ

(環境報告書の関連ページ一覧表)

環境報告書等の有無	☒ あり	☐ 予定あり ^{注4}	☐ なし
-----------	--	---	-----------------------------

(注4) 環境報告書等の策定予定年月 (年 月)

環境報告書等の名称(、URL)

環境報告(要約版)の記載項目	該当 ページ	環境報告(要約版)の記載項目	該当 ページ
I. 基本的事項		V. 組織体制及びガバナンスの状況	7
II. 経営責任者の緒言や方針に関する事項	1	1. 環境経営の組織体制等	7
1. 経営責任者の緒言	1	2. 環境に関する規制等への遵守状況	8
2. 環境配慮の方針	5	VI. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	18
III. 重要な環境課題や戦略に関する事項		1. グリーン調達の取組状況	14
1. 重要な環境課題	8	2. 製品・商品・サービス等による環境負荷低減	
2. 背景情報		VII. その他の事項	
3. ビジョン及び戦略	2	1. 組織体制及びガバナンスの状況	7
IV. 重要な環境課題に関する当年度の対応状況		(1)環境監査及び環境教育	7
1. 重要な環境課題(気候変動)	13	(2)災害事故等への対応状況	9
2. 重要な環境課題(廃棄物)	16	2. ステークホルダーへの対応状況	21-26
3. 重要な環境課題(大気・水質)	11	4. 後発事象	